

語学研修比大学と覚書

八戸学院 長期休み利用、学生派遣

八戸学院

八戸学院大(小林眞学長)と同大短期大学部(杉山幸子学長)は10日、フィリピンの総合大学と国際学術協力に関し覚書を締結した。長期休みを利用して英語の語学研修を望む八戸学院側の学生をフィリピンに派遣する予定で、国際人材の育成を目指す。(向屋敷萌)

八戸学院側が覚書を締結したのはフィリピンのアテネオ・デ・ダバオ大。1948年の創設で、看護学部や教育学部、法学部など6学部で構成。現在約1万7千人の学生が在籍している。覚書の内容は▽人的交流▽教育プログラムの実施▽研究・学術活動の協力▽包

括的な連携など。八戸学院大と同大短期大学部が海外の大学と覚書を締結するのは3例目。

この日の覚書調印はオンライン上で行われ、米国やカナダ、オーストラリアなどの7大学も加わり、学生を受け入れるダバオ大とサインを交わした。

同大学長のカレル・S・サン・ファン神父は「(覚書の締結は)大学と大学だけでなく、国、世界を結ぶのと同じこと。とても素晴らしい」と意義を強調。小林学長は「調印を機に、本学の学生が海外に興味を持ち、ダバオ大とのさまざまな事業に参加することを期待するとともに、ダバオ大からも学生の皆さんが訪れることを心待ちにしている」と話した。



アテネオ・デ・ダバオ大と覚書を締結した小林眞学長(右)と杉山幸子学長
10日、八戸市